

## 5) 1 松江の近代建築

松江はある意味で軍都です。宍道湖という大きな湖を抱えていますが、塩分の混じった汽水湖ですので、飲料にも農耕にも利用できません。中世は今の市街地



田野医院 松江市苧町

のほとんどが湿地帯で、人が住む集落はわずかでした。堀尾吉晴は徳川から出雲を与えられ、松江に新たな町を築くことにしました。山を崩し、土地を盛り、城を築き、堀や道路を全く新たに拵えました。最初から戦を前提に作られた城下町です。そして明治、日本陸軍の部隊が配置されることになって、さまざまなインフラ整備が進みました。鉄道、水道、道路などです。

松江で最も古いと思われる近代建築は、明治4年と言わ

れる**田野医院**です。土蔵風の擬洋風としては全国的にも早い年代です。

**興雲閣**は大正天皇が皇太子時代行啓された際に宿泊所として建てられました。明治36年の建築です。当初は四方にベランダが廻り、大阪の**泉布館**ぐらいいしか例のない珍しい形式でした。このいわゆるベランダコロニアル様式は当時としては時代遅れのものですが、明治10年に建設された島根県庁をほとんどコピーして安上がりに作ったようです。隣の鳥取では同様の目的に対し、**仁風閣**という片山東熊による本格的な物を建てたというのに。

**カラコロ工房**は名前をラフカディオ・ハーンの松江印象記によるのですが、元は日本銀行松江支店です。昭和13年建築で、設計は長野宇平治。20年近く前に取り壊しの話が持ち上がりましたが、建築士会などで保存運動を行い、それが市民レベルに発展し、このような改修にこぎつきました。この界限にはいくつもの銀行建築が立ち並んでしまいましたが、ほとんどが取り壊されました。残ったのは旧国立第三銀行の**かげやま呉服店**、そして**カラコロ美術館**として昨年よみがえった旧八束貯蓄銀行です。



興雲閣 松江市殿町（城山内）



仁風閣（鳥取県鳥取市）



カラコロ工房 松江市殿町



かげやま呉服店 松江市京店

美保関灯台は明治 31 年初灯。島根半島東端の岬の上に建つ、スコットランドスタイルのもので、地元産の森山石を積み上げていま



カラコロ美術館 松江市殿町



美術館内部

す。上にペンキを塗ってい

るのでこんなに白いのですが。灯台の脇にある旧吏員退舎はビュッフェとして使われています。ここからの日本海の眺めは最高です。



トラヤ洋品店はコーナー部の来待石のレリーフにそれぞれ子供やヤギの絵が彫込んであり、モチーフはイソップだという人もいますが、判明していません。

元は山陰道実業という トラヤ洋品店レリーフ 東本町 貿易のための商社として建てられました。

津森医院は昭和初期の医院建築で、設計者も知りませんが、地域のランドマークです。とてもユニークな形をしていて、今も現役です。



一フが特徴です。8 枚の石板に  
美保関灯台 松江市美保関町



津森医院 松江市本庄町

松江の水道遺構も紹介します。松江は水の都とも呼ばれるのですが、飲み水には恵まれませんでした。井戸を掘



水道施設ポンプ舎 松江市忌部町

っても出るのは金気の水ばかりです。たまに良い井戸が掘れば酒に使われます。明治が終わるまで、松江には水売り商人がいて、売り歩いていました。結果的には赤痢やコレラの疫病の流行です。明治期から水道の計画はなされていたのですが、要する費用のために進みませんでした。そこに陸軍駐屯の計画が出て、急遽水道敷設が具体化しました。結果的に配水が始まったのは大正に入ってからでした。



千本貯水池ダム